

<白金標準先物、修正波動からのリバウンドに注意・・・>



(出所：オアシス)

中国ではゼロコロナ政策の緩和策を発表したが、北京や広州で新規感染者が拡大しており、4月の上海市を超える新規感染者が2万人を超えている。またウクライナ4州の併合を受けてLMEはロシアの金属会社ルサルとノリリスクのLME指定倉庫使用禁止の提案を否決している。そのため2021年2月の高値4524円を超えて、一時円安効果に支えられ4633円まで上昇した白金標準先物は、週末には4301円まで下値を試している。特にエリオット波動論で示す5波を3614円から始めると4633円で終えており、現在は4633円からの修正波動を行なっている。特に黄金比で示す1019円の上昇幅の修正で0.382が4243円であり、最悪はこの水準までの調整は頭に入れて置きたい。

しかし22日にはWPIC第3四半期PGM需給報告の発表が予定されており、第2四半期の30トンの余剰在庫は減少する観測であり、またインドの宝飾需要がPGIの報告では2019年と比べ125%の増加を示すなど強気の要因となる可能性は高い。またNYマーカンタイル取引所の指定倉庫のプラチナ在庫は4.7トンまで減少しており、下げ止まりからのリバウンドが予想され4400円への回復を示す可能性は強まると思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDはMACDが下げながら、シグナルも下げており、RCIでは長期は下げだったが、短期が下げ過ぎた水準であり、目先10日移動平均線が位置する4438円へ向けたリバウンドが予想され売り玉の利益確保が先行する場面に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,210,000 円(2022 年 11 月 21 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 11 月 21 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>